



ふるさとの

自然観察ガイドブック



鳥取県

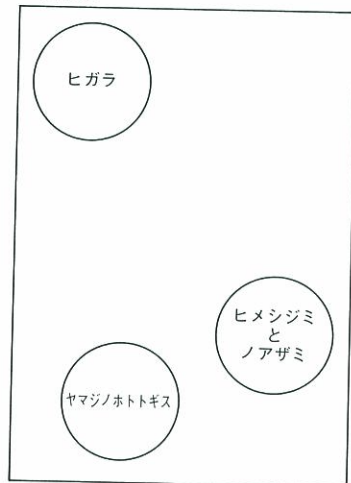
ふるさとの自然観察ガイドブック



このガイドブックは、鳥取県内のモデル的な自然探勝コースを紹介し、自然観察のセルフガイドとして役立てていただくものです。

——— ゴミは持ち帰ろう ———

表紙写真



裏表紙：マンサク

◀ 目 次 ▶

●山陰海岸コース	1
コースガイド	
自然探訪	
●本陣山・摩尼寺コース	17
コースガイド	
●氷ノ山登山コース	25
コースガイド	
自然探訪	
●那岐山登山コース	45
コースガイド	
自然探訪	
●打吹山登山コース	63
コースガイド	
●大山川床～一向平コース	77
コースガイド	
自然探訪	
●大山登山コース	93
コースガイド	
●烏ヶ山登山コース	101
コースガイド	
自然探訪	
●中海水鳥コースガイド	119
コースガイド	
●水尻池水鳥コースガイド	127
コースガイド	
監修後記にかえて	134
あ と が き	136

ふるさとの自然観察コース位置図



- ① 山陰海岸コース
- ② 本陣山・摩尼寺コース
- ③ 氷ノ山登山コース
- ④ 那岐山登山コース
- ⑤ 打吹山登山コース
- ⑥ 大山川床～向平コース
- ⑦ 大山登山コース
- ⑧ 烏ヶ山登山コース
- ⑨ 中海水鳥コース
- ⑩ 水尻池水鳥コース

1:500,000



《監修後記にかえて》 大山と砂丘

清 末 忠 人

私たちのふるさと鳥取県は、豊かな自然に恵まれ、なかでも大山は昭和11年2月1日大山国立公園として、十和田、富士箱根、吉野熊野と共に指定され、さらにその価値を認められて、昭和34年4月10日には蒜山、三瓶山、島根半島、隠岐島を包含して、大山隠岐国立公園として指定された由緒ある国立公園である。

私は、この山に魅せられて過去40年間に100回以上も登山した。そして毎回、新鮮な自然美と人々の出合のすばらしさに感激の連続であった。

高度が増すにつれて変化する植物の生態、緑そして紅と季節毎に移ろう中腹の樹海、神秘と幽幻の阿弥陀川や甲川の上流の自然、高原にひびく野鳥のさえずり、木陰にひっそりと、あるいは湿地や高原に美しい花を咲かせる千草の姿、その花を訪れる変化に富んだ昆虫の数々、それ等がそれぞれの環境を選んで生きている様は、複雑な地形を有する大山だけに、将に千変万化興味の尽きることを知らない。

そんな中で野鳥や植物の調査を進めてきたが、特に自然保護に関する思い出としては、昭和40年昭和天皇が植樹祭にご来県になるというので、大山の動物の標本をご覧いただくことになり、生駒義博先生等と採集許可証を携えて登山した。この時、登山道で目的の植物を採集しようとする、「そこはだめだ、もっと人目につかない場所で、枝一本切るにしても切り口が登山者の目にふれないところで…」と生駒先生から注意されたことである。

些細なことかも知れないが、私には、強力なパンチをもらった思いであった。

また、大山寺を中心に分布する史蹟も幽玄の中に当時を偲ぶことができ、タイムスリップしている自分にハッと気付くなど、神秘的な経験も大山の大自然が背景にあってのことと思われ、その環境の保護が望まれる。

一方、鳥取市のシンボルといわれる大砂丘も山陰海岸国立公園の一部で、昭和29年にはその一部が国の天然記念物として指定された。

私が本格的に砂丘の研究に取り組んだのは昭和25年からで、当時の砂丘は、終戦後の食糧難の時代に生産能力を高めるために飛砂を防ぐ植林と畑作地としての緑化の研究が盛んであった。それを、砂丘のままで保存しようという運動が起こり、私も、そのお手伝いに走り廻った。

市民の声の中には「砂のままで残して何になる。腹がよくなるわけでもなし、じゃまになるだけだ」というものもあり、生駒義博先生を中心にした運動は幾

度も壁に突き当たった。

それが、当局の御理解により前述の如く国の天然記念物に指定された。この時、指定地の中心追後スリパチの上に立った生駒先生が「昨日まで、じゃまもの扱いされていた砂丘も、今日からは国の宝になった。この大自然を傷めることなく、教化・リクリエーション・学術研究の場として活用しなければならない。今日から、また多忙になるぞ」とおっしゃった言葉は、今も私の胸に焼きついている。

その砂丘は、春にはクリーム色の肌にハマヒルガオやハマハタザオの花を咲かせ、夏にはコウボウムギの緑のじゅうたんが炎天の下に広がり、秋にはハマベノギクやウンランの美しい花がゆれる。しかし、真夏の砂丘の温度は60度にも達し、秋の台風では飛砂で砂丘の全容が変化し、冬は1メートルの積雪の下に埋もれる。この苛酷な自然の中に植物だけでなく、イソコモリグモ、スナジベッコウなど砂丘独特の動物も生息している。

その砂丘が、今や植林・河川工事などの要因も加わって自然緑化が進み問題となっている。

「永い地球の歴史の中で、多くの生物は、天変地異の襲来によって滅びたが、現在人類は人類によって環境を悪化させ、滅びようとしている」とは魚類学者として著名な末廣恭雄博士の言葉である。

この意味をしっかりと受けとめて、真の自然保護運動を展開しなければならない。樹には木霊が、水には水神が宿ると信じ、1本の樹に畏敬の念を抱き、一掬の水に感謝した我々の先祖の姿こそ、自然の中の一員として生かされている人間としての謙虚さであり、絶えず心のどこかに持ち続けていなければならないと思う。それを失ったとき環境の悪化が進み、生物生存の危機が迫ってくるのではなからうか。

◀ あとがき ▶

このガイドブックは、鳥取県内の代表的な、或いは手頃な自然観察のコースを紹介するため、「県民健康週間」の事業の一つとして催してきている「自然観察健康ウォーク」を実施した場所を中心に一冊の書にまとめたものです。

このガイドブックが皆さんと自然とのふれあいのきっかけになればと考えて作成しました。この本を参考に、鳥取県の素晴らしい自然の中で家族そろって、或いは職場の仲間などで心地よい汗を流していただければこれ以上の喜びはありません。

なお、本書は鳥取県衛生環境部自然保護課で編集いただきましたが、次の方々に執筆、写真等の御協力をいただきました。ここに記して心からお礼申し上げます。

〈監修〉

清 末 忠 人

〈執筆〉

小 西 毅
清水谷 登
遠 藤 勝 寿
細 谷 賢 明
川 上 明 敏
森 本 満喜夫
岸 本 勉
田 中 寅 夫
國 本 洸 紀
依 藤 英 徳
山 本 賢 二
安 田 亘 之
橋 谷 聡
藤 本 泰 三
真 田 広 幸
清 末 幸 久
藤 岡 泰 信

〈写真撮影〉

細 谷 賢 明
松 岡 嘉 之
安 田 亘 之
山 本 賢 二
古 田 晋 平
甲 斐 茂
弘 田 充
古 林 一 久

発行 平成3年3月
企画 鳥取県自然保護課
編集 TEL 0857-26-7204
印刷 日ノ丸印刷株式会社
TEL 0857-22-2248

